

平成 28 年 2 月 7 日

朝日新聞掲載

35歳田原3位 エアリアル

フリースタイルスキー 5日

W杯

米ユタ州ディアバレーで男女のエアリアルが行われ、男子の田原直哉（ミルキーウェイ）が3位に入り、4季ぶりで表彰台に入った。

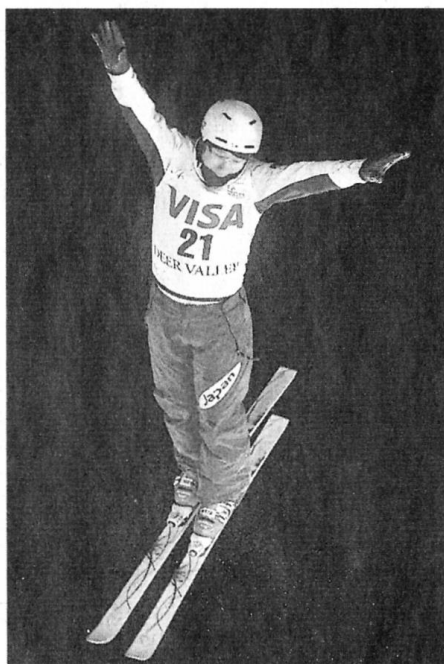
田原のW杯表彰台は2012年1月モンガブリエル大会（カナダ）の3位以来2度目。田原は予選を12位で通過し、決勝1回目6位で2回目に残り、123・53点を挙げた。南隆徳（美深エアフォース）は27位で予選落ちした。ピョートル・メドゥリチ（ロシア）が優勝した。女子は張鑫（中）が制した。

（時事）

4季ぶり表彰台

35歳になった日本の第一人者の田原が4年ぶりで表彰台に返り咲いた。3位に食い込み、「素直にうれしい。今回は力で勝ち取ったイメージが強い」と実感を込めた。

12人の決勝1回目は118・14点の6位で、上位6人による2回目にぎりぎり進出。2回目は3回転4回ひねりの大技で着地を決め、自己新記録という123・53点。「空中（への意識）は7割ぐらいにして、着地に集中している」という今季。全体の完成度でW杯優勝経験のあるカナダ勢



W杯エアリアルで3位に入った田原直哉＝AP

を抑え、「きれいにまとめられた」と喜んだ。

日本代表として活躍した体操からエアリアルに転向して10年弱。日本の競技環境は厳しく、ここ2大会の五輪には派遣なし。田原の今季の遠征は全て自費。長野県の旅館でアルバイトし、寄付を募って活動費を

捻出している。

それだけに、「サポートしてくれる人がたくさんいる。五輪で戦いたい」との思いは強い。

「年々、スキルアップしている感じ。まだまだいける」。2年後の平昌五輪に向け、確かなステップとなった。

（時事）